

第158回国会概観

第158回国会（特別会）は、平成15（2003）年11月9日に行われた第43回衆議院議員総選挙を受け、日本国憲法第54条の規定に基づき、11月19日に召集された。会期は、11月27日までの9日間と議決され、開会式が11月21日に開かれた。

召集日当日、両院本会議において小泉純一郎自由民主党総裁が内閣総理大臣に指名され、同日、第2次小泉内閣が発足した。

衆議院議員総選挙等

第43回衆議院議員総選挙は、10月10日に衆議院が解散されたことに伴い、11月9日に実施された。

第157回国会で成立した改正公職選挙法により、今回の選挙からマニフェストの頒布が認められた。各政党は、選挙期間中それぞれの政策を前面に打ち出し、有権者に支持を訴えた。

総選挙の結果、連立与党3党の合計は275議席（自由民主党237議席、公明党34議席、保守新党4議席）となり、定数480の過半数を確保したが、自由民主党は解散前議席を下回り、保守新党は半減した。一方、民主党は議席を大幅に増やし177議席となったが、日本共産党は9議席、社会民主党は6議席とそれぞれ議席を半数以下に減らし、自由民主党と民主党による二大政党化の傾向が強まった。また、無所属の会及び自由連合はそれぞれ1議席、無所属は11議席となった。なお、全国平均投票率は、小選挙区59.86%、比例代表59.81%であった。これは、史上最低だった平成8年10月の総選挙に次いで史上2番目に低い投票率である。

総選挙の結果を受けて、保守新党は11月10日、自由民主党への合流を発表し、11月17日、自由民主党と保守新党は合併協議書に調印した。11月21日、保守新党は解散し、自由民主党と合併した。これに伴い、11月18日、参議院の会派「自由民主党・保守新党」は、名称を「自由民主党」に変更した。

また、第157回国会閉会後の10月26日、参議院埼玉県選挙区選出議員補欠選挙が行われた。この選挙は、埼玉県知事選挙に立候補した浜田卓二郎君の退職に伴うものであり、衆議院議員総選挙の前哨戦として注目された。選挙の結果、自由民主党の関口昌一氏が当選した。

議院の構成

召集日当日、倉田寛之参議院議長の発議により、災害対策特別委員会、沖縄及び北方問題に関する特別委員会、金融問題及び経済活性化に関する特別委員会、政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会の4特別委員会が設置された。同日、各特別

委員会において、それぞれ委員長が選任された。

また、内閣、財政金融、国土交通、環境及び国家基本政策の5常任委員会の委員長辞任が許可され、新たに選任された。

衆議院では、召集日当日、議長及び副議長の選挙が行われ、無記名投票の結果、議長に自由民主党の河野洋平君が、副議長には民主党・無所属クラブの中野寛成君が、それぞれ過半数の投票を得て当選した。また、議院運営委員長に武部勤君が選任された。議院運営委員長を除く各常任委員長は11月20日に選任された。

内閣総理大臣の指名

11月19日の両院本会議において、内閣総理大臣の指名が行われた。投票の結果、小泉純一郎自由民主党総裁が民主党の菅直人代表、日本共産党の志位和夫委員長らを退け、第88代56人目の内閣総理大臣に指名された。獲得票数は、衆議院本会議で281票（投票総数479票）、参議院本会議で136票（投票総数240票）であった。

同日、第2次小泉内閣が発足した。なお、閣僚17人は全員再任された。

国政調査

11月25日及び26日、衆参両院で予算委員会が開会された。参議院では、11月26日、予算の執行状況に関する調査を行い、イラク復興支援の在り方、年金制度改革の在り方、日本道路公団の改革方針、北朝鮮問題への対応、衆議院議員選挙の総括等の諸問題について、江田五月君（民主）、海野徹君（民主）、林芳正君（自民）、小林温君（自民）、弘友和夫君（公明）、小池晃君（共産）、福島瑞穂君（社民）及び松岡満壽男君（無会）が小泉内閣総理大臣等に対して質疑を行った。

臨時会召集要求

第158回国会の最終日である11月27日、藁科満治君外94名は、日本国憲法第53条の規定に基づき、内閣総理大臣宛の臨時国会召集要求書を倉田議長に提出した。これは、今特別会において、小泉内閣総理大臣の所信表明演説及び代表質問並びにイラク、道路公団、BSE（牛海綿状脳症）等の諸問題に関する審議を要求したにもかかわらず、与党及び小泉内閣が応じなかったことを理由としたものである。衆議院においても、同様の要求書が安住淳君外193名により河野議長に提出された。

同日、両院議長は、それぞれ要求書を内閣に送付した。